

Q22 児童生徒が複数いる時、落ち着かない、調子が悪い児童生徒がいる場合、どのように指導するのか悩みます。



特別支援学級担任

情緒的に落ち着かないので、学級に全員そろった時の指導が難しいです。

調子が悪い生徒がいると、その生徒の対応のため、全体の指導ができないことがあります。



通級指導教室担当



特別支援学級担任

全体で指導する場合、急な飛び出し等に対応する教員がおらず、指導がストップしてしまいます。

A 児童生徒のその日の状態をよく見て、課題の内容や指導の順序の変更、休憩スペースの活用等、柔軟に対応しましょう。

登校中や交流学級・在籍学級で何か嫌な思いをした等、気持ちが授業に向かない状況にあるのかも知れません。まずは、児童生徒の気持ちの傾聴を心がけ、状態を把握しましょう。

興味のある話題を投げかける、休憩スペース（情緒が不安定になりがちな児童生徒がいる場合、あらかじめ学校や教室の一角に休憩スペースを用意する工夫が考えられます）で休ませる等、気持ちを切り替えられるような工夫をしましょう。

また、当初の計画にこだわらず、参加できるようになってから参加する、取り組めそうな課題を児童生徒と相談して決める、準備していた課題以外の物を活用する等、児童生徒の反応を見ながら柔軟に対応しましょう。事前に、複数の課題を用意して、選べるようにしておく工夫も考えられます。

個別には上記のような対応をしますが、全体の指導は通常通り進めるようにします。教師が一人で対応せざるを得ない場合は、全体への対応と個別の対応を、バランスよく進めるしか方法はありません。

落ち着かない、調子が悪い状態が継続する場合は、交流学級や在籍学級の担任、保護者、特別支援教育コーディネーター等から聞き取りを行い、原因を探り、今一度、指導方法や指導内容等の見直しをしましょう。児童生徒の実態を把握し直し、本人の得意な面から指導内容等を修正することも考えられます。

急な飛び出しをする児童生徒がいる場合、安全確保のためには、校内の協力体制も必要です。対処要領をあらかじめ定めておきましょう。また、なぜ、急に飛び出したのか原因を探りましょう。そして、その原因に応じた、飛び出しをしない対応を取りましょう。そうならないための先行的な対応を取ることが、特別支援教育の基本です。

